

バックミンスター・フラー

Buckminster Fuller

1895-1983 アメリカ

思想家。建築、数学、芸術、科学などあらゆる分野で活躍。『宇宙船地球号操縦マニュアル』(1963)などの著作や、「ダイマクション地図」「ジオデシック・ドーム」といった作品を通して、「世界をいかにして機能させるか」という課題を生涯追い続けた。

1895 - 1983 United States of America

Philosopher. He played an active role in various fields such as architecture, mathematics, art, and science. He pursued the subject of "how to function the world" through his writing Spaceship Earth (1963) and works such as his "Dymaxion map" and "Geodesic domes".

バックミンスター・フラー

4D タイム・ロック

1927-1929年

紙に水彩



Buckminster Fuller

4D time lock

1927-1929

Watercolor on paper

1927年、32歳のフラーはシナジー幾何学などの着想を得て「4D」を執筆。その後まもなくダイマクション・カーとダイマクション・ハウスを設計し、1934年にはシカゴ博に出品した。

「いま必要なことは選択の道があるということに気づくことだ。宇宙のデザインの法則を手に入れる道は開かれている。問題は制度としての政治や宗教における人間ではなく、個人としての人間が法則の発見者たり得るかということに尽きる。」

バックミンスター・フラー

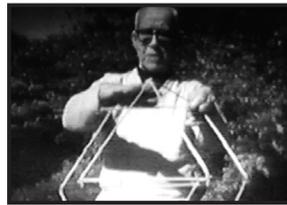
1982年10月25日東京での講演会で語った言葉。ワタリウム美術館設立前、この同じ場所でバックミンスター・フラーを迎え小さな講演会が開催された。その夜、100人余りの日本の観客の前で、当時87歳のフラーが熱く語った。

バックミンスター・ フラ

映像「ジターバグ」
7分

Buckminster Fuller

Video "Jitterbug"
7 min



ジターバグはフラが考案した構造モデル。伸縮する様が当時流行っていたジターバグを踊る男女を想起させることからこの名前が付けられた。

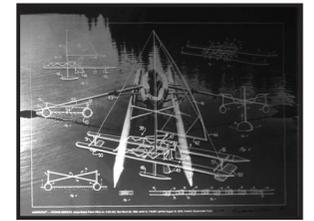
バックミンスター・ フラ

ウォータークラフト・
ローイングニードル

(ポートフォリオ「一つを巡る十二の発明」より)

1981年

シルクスクリーン



Buckminster Fuller

Watercraft - rowing needles
(from the portfolio "Inventions: Twelve around one")

1981

Silkscreen

アメリカ合衆国特許局 3,524,422 申請1968年3月28日

シリアル番号716,957 認可1970年8月18日

発明者：バックミンスターフラ

これはウォータークラフトのデザインのシリーズとしては最後のものになり、最初の考案・制作は1905年だった。この“ローイングニードル”は、実際に漕ぎ帆走するためにデザインされた。前後に動くシートのある双状船体のいかだ船で、水の抵抗は最小におさえられている。

バックミンスター・ フラー

建築構造体

ジオデシック・ドーム

(ポートフォリオ「一つを巡る十二の発明」より)

1981年

シルクスクリーン



するという記録破りの集客力を見せつけ、1968年には、アメリカ建築家協会の建築デザイン賞受賞第一号となった。

Buckminster Fuller

Building construction - Geodesic dome

(from the portfolio "Inventions: Twelve around one")

1981

Silkscreen

アメリカ合衆国特許局 ファイル番号 2,682,235

申請1951年12月12日 シリアル番号261,168 認可1954年6月29

日 発明者：バックミンスター・フラー

1964年バックミンスター・フラーは、モントリオール万国博'67のアメリカ館のデザインを委託された。直径76メートルの3/4球体のジオデシック・ドームは、スチールで建てられプレグラスで皮膜された。1967年4月に開館されたこの“天まで届くようなシャボン玉”をピーター・ウスケノフが“バックミンスター・フラー・カテドラル”と呼んだように、最初の6ヶ月で5千万人を突破

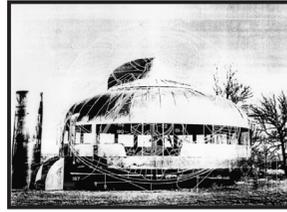
バックミンスター・ フラー

ダイマクション居住マシン、
ウィチタ・ハウス

(ポートフォリオ「一つを巡る十二の発明」より)

1981年

シルクスクリーン



Buckminster Fuller

Dymaxion dwelling machine - Wichita house
(from the portfolio "Inventions: Twelve around one")

1981

Silkscreen

アメリカ合衆国特許局 申請1946年3月16日

発明者：バックミンスター・フラー

ウィチタ・ハウスは、第二次世大戦で隆盛をみた航空機産業の技術を、居住ユニットの生産に移行する試みの中から発想された。ビーチ・エアクラフト社が、カンザス州にあるウィチタ工場の作業スペース、技術者、道具を提供した。そこで制作されたプロトタイプは一個あたり、2.7トンの重量を有し、これは、1927年に計算されたダイマクション・ハウスの推定重量と一致することが、合金の調査の完了で判明した。

ウィチタ・ハウスは円形で、中央のマストによって地面につながれている張力を利用した構造体である。それぞれのパーツの重さは、4.5キログラムを上限とし、また、片手で所定の場所に収めることができ、一人で組立が可能になっている。パーツのほとんどは、輸送を考慮し重ね合わせられるようになっており、また全パーツが、規格の円筒状の輸送コンテナの中に入るようになっている。大量生産が可能になれば、一軒あたり、設置も含め6,500ドルで販売可能と見積もられた。